

「津和野の証し人」朗読劇台本

朗読時間 約 35~40 分 / 全 14 ページ

- | | | |
|-------------|--------------------|--------------|
| 1、始めの言葉 | 7、甚三郎の改心戻し | 13、祐次郎の迫害 |
| 2、信徒発見 | 8、徳川幕府から明治政府へ | 14、岩倉具視使節団 |
| 3、キリシタンの再教育 | 9、153人津和野へ流配 | 15、浦上村帰郷に向けて |
| 4、自葬事件 | 10、説得から拷問へ | 16、おわりに |
| 5、浦上四番崩れ | 11、「乙女峠」の由来、安太郎の殉教 | |
| 6、甚三郎の改心 | 12、減食の責め苦・モリちゃん | |



朗読者（語り手）一覧

女語り、男語り、信徒、外交団、役人、役人 1. 2. 3
 甚三郎、仙右衛門、牢内頭、クザン神父、
 子供（安太郎、もりちゃん、祐次郎）、欧米諸国の人 1. 2. 3、
 群衆 1. 2、平の友吉 ……実演の際は、色々兼任すれば良いと思います。

初演 2018・6・18（広島教区カテドラル）

パワーポイント画像	語り手	語り
1. はじめのことば		
★タイトル 1, 2 ★乙女峠祭 写真(5枚) 3, 4, 5, 6, 7	女語り	山陰の小京都とよばれる、津和野の街に行く、聖母マリアの行列です。マリア像の後に続いて 全国から集まった信者たちが、「あめのきさき」を歌い ロザリオを唱えながら、乙女峠を目指しています。 これから始まる朗読劇は 激動の幕末・明治維新という時代に、カトリックの信仰を 命賭けで守り、非暴力で闘った、浦上キリシタンたちの物語です。
2. 信徒発見 1865年3月17日「ワレラノムネ アナタノ ムネト オナジ」		
★大浦天主堂 8、9 (ワレラノムネ) ★信徒発見の場面の絵 10 ★隠れキリシタン 11	男語り	1865年 長崎に大浦天主堂が献堂され、その1ヶ月後の3月17日の昼下がり プチジャン神父に数名の 農民が近づき、「ワレラノムネ アナタノ ムネト オナジ」と告げました。 これが250年間、表向きは 仏教徒を装い、たえず、死の恐怖にさらされながら、親から子へ、子から孫へと、信仰を守り伝えた、浦上村隠れキリシタンの 神父との出会い「信徒発見」の瞬間でした。

3、プチジャン神父、浦上キリシタン 再教育		
<p>★ 秘密礼拝堂 12 13</p>	<p>女語り</p>	<p>プチジャン神父の一番の仕事は、新たな 迫害が起きないように はやるキリシタンの心を、落ち着かせることでした。 大浦天主堂には、役人が警戒の目を光らせていたので、 キリシタンたちには、しばらく 教会に来ないように告げ、 そのかわり、背が低く 日本人に変装しやすかった ロカーニュ神父が、 日が暮れてから、4カ所の 秘密礼拝堂を、巡回することにしました。</p> <p>キリシタンたちは、宣教師から新たに教理を 学ぶにつれて、 今まで当然のように行っていた、聖徳寺の 檀家としての 務めを、 このまま 続けて良いものかどうか、悩むようになりました。</p>
★14 4、自葬によって、檀那寺と決別し キリシタンを表明する		
<p>★自葬とは 15 ★説明 16 17</p>	<p>男語り</p> <p>信徒</p>	<p>そして、とうとう、本原郷と 平野宿で、続いて死者が出た時、 檀那寺の聖徳寺に 告げることなく、自分たちで キリスト教の 葬式を してしまいました。これを「自葬」と言います。</p> <p>自葬決行は、徳川幕府の「寺請け制度」をひっくり返す 爆弾宣言でした。 これを知った庄屋は、仰天し 自分の責任問題になることを恐れて 脅したり すかしたりして 説得しようとしてしました。</p> <p>しかし、浦上全村800戸のうち 700戸が、名簿と共に 聖徳寺と縁を切る 口上書を 庄屋に差し出しました。</p> <p>「わたしたちは、昔から キリシタンの信仰を、守ってきた 家でありま すので、これからは葬式など いっさい キリスト教によって行います。 さよう ご承知おきください」</p>
★ 18 19 5、日本史上、最後の迫害となる「浦上四番崩れ」 勃発		
<p>★浦上 四番崩れ の説明 20 21 22</p>	<p>女語り</p>	<p>これが、日本キリスト教史上 最後の迫害といわれる 「浦上四番崩れ」の勃発です。</p> <p>「崩れ」とは、キリシタンの組織を 徹底的に破壊することです。 それまでの、一番 二番 三番の 「浦上崩れ」の発覚は、密告による ものでした。</p> <p>しかし、今回の「四番崩れ」は、キリシタン自らが 殉教を覚悟で、 自分たちの 隠れた信仰を、表に出したのです。 長崎奉行が捕縛に動いたのは、 ローマで日本の殉教者205人が、列福された 8日後の 1867年7月15日真夜中のことです。</p>

		<p>どしゃぶりの雨の中、突然4つの秘密礼拝堂が、襲われました。</p> <p>この時、以前から目を付けられていた 仙右衛門など 68人が、桜町の牢屋に 放り込まれました。</p>
6、桜町牢屋での拷問・仙右衛門 ただ一人不改心		
★教会 23	男語り	長崎の居留地にすむ外国人は、自分達と同じ信仰を持つ 浦上農民が、キリスト教を信じる と言うだけで、逮捕されたことに 衝撃を受け、その日のうちに 奉行所に抗議し、釈放を 求めました。
	外交団	『信仰の自由』は 国法に優先する 自然的人権である。 キリシタン弾圧は 人道に背くものだ。 この事件が、我々の本国に 報告されたならば、あなたがたが望んでいる 対等な条約は結べないだろう。」
	役人	「日本の法によって、昔から キリスト教は 禁じられている。 我が国民を罰するのに、いちいち 外国領事に 相談する必要はない。 あなたがたの 言っていることは、内政干渉 というものだ。 釈放については、江戸からの 指示がなければ、我々が 勝手にすることはできない。ただ、拷問にかけないことだけは 約束する。」
	男語り	と、外国公使に 明言したにもかかわらず、実際には ひどい拷問をして改心を迫っていたのです。 ここで言う「改心」は、キリスト教を 棄てるという意味です。 甚三郎は『覚え書き』の中で、こう 述べています。
	甚三郎	「見せかけだけの改心は、する気がない。」と言いました。 それを潮に “ドドイ” という ひどい拷問が 始まりました。 体を弓なりに縛り上げ 家の梁 <small>はり</small> から 吊るされました。 吊るすだけではなく 縄をグルグル巻いて “こま” のように 振り回されました。 目玉が飛び出たり 体の穴という穴の中のものが 飛び出します。 棒と鞭でたたかれ 水を掛けられると、縄はちぢみ 身の中に食い込み、皮膚は死人のようになります。 城越村 <small>じよのこしむら</small> の元助 <small>もとすけ</small> ら6人も、“ドドイ” という 拷問を受け、半殺しの状態で 門口 <small>かどぐち</small> にころがされました。 役人が「あのおりに、体が痛まぬうちに 改心するが良い。」と言うと、殆どのものの心は弱り、改心証文に 爪判 <small>つめはん</small> しました。次に同じ、拷問を受けることになっていた 私も、力を落し、爪判を しました。
★爪判をす る 24		

<p>★ 仙右衛門 25</p> <p>★ 帰される 26</p>	<p>男語り</p> <p>仙右衛門</p> <p>牢内頭</p> <p>仙右衛門</p> <p>牢内頭</p> <p>男語り</p>	<p>改心しないのは ただ一人、45才の仙右衛門^{せんうゑもん}だけでした。</p> <p>牢内頭^{ろうないかしら}は 諭^{さと}すように 私に言いました。</p> <p>「その方は 妻^{ほう}を亡くし、子供ばかりが 家にいるそうだが、体を痛めずに帰ったら 子供も助かるし、お上から 褒美^{ほうび}も出る。今の拷問を 見たであろう。全員、耐えきれずに 改心したのだから、その方一人になったら、なおのこと 拷問に 耐えられないだろう。今、ここで 改心せよ。」</p> <p>「あなたが、今 言われたことは、よく分かります。肉体だけの 問題で言うなら、それが、一番 良いことだと思います。しかし、天主から 頂きました アニマと、天主の 御恩を 考えますと、もうしわけありませんが 改心することは 出来ません。わたしは、人は おそれません。天主だけを 畏れます。</p> <p>私は、百人の 仲間がいるから 強気になり、一人になると 弱気になるような 人間では ありません。信念は、けっして 変えません。」</p> <p>「それなら、もう 改心しろとは もうさん。私も、元は侍であれば、戦^{いくさ}に出て 一人になっても、殿様に忠義を尽くして 御奉公する 志^{こころざし} と、その方が 天の主^{ほう}に御奉公する 志^{あるじ}は 同じだ。もう これからは、改心しろとは 言わん。」</p> <p>仙右衛門は、甚三郎たちより 3日のちに 帰されました。</p>
7、徳川幕府崩壊の混乱期、甚三郎の改心戻し		
<p>★願い出 27</p> <p>★倒幕～ 明治維新へ 28</p>	<p>女語り</p> <p>役人</p> <p>女語り</p>	<p>先に帰った甚三郎たちは、“天狗”が 付いていると言われ、家に入れてもらえず、昼も夜も 山の中で 三日三晩 泣いていました。</p> <p>仙右衛門が、信仰を守り通して 帰って来たのを見ると いても立っても いられません。</p> <p>仲間に呼びかけて、今度こそ 死ぬ覚悟で 庄屋に改心戻しを 願い出ました。しかし、意外にも 代官所の役人は、</p> <p>「いずれ 呼び出すから、それまで家におれ。」</p> <p>と 言い渡した だけでした。</p> <p>この年1867年12月、江戸では徳川幕府が倒れ（大政奉還）</p> <p>長崎奉行の役人も、甚三郎たちに構ってられない事情があったのです。</p>

8、明治新政府のキリスト教偏見と キリシタン処分		
★キリシタン処分 29	男語り	1868年1月3日、天皇を頂点に、神道国家を宣言する、明治新政府が成立しました。 次いで、浦上キリシタン処分について、御前会議 <small>ごぜん</small> が、開かれました。 木戸孝允 <small>たかよし</small> ら強硬派の意見は、こうでした。
	役人-1	「浦上キリシタンは、島原 <small>うらかみ</small> の乱を起こした子孫である。 外国人に唆 <small>そそのか</small> されたこの者たちを放置しておけば、再び九州争乱を起こすに決まっている。」
	役人-2	「天皇の御先祖たる大神宮を拝まないキリシタンは、神道国家建設の大きな害である。先ず主だった者の首を切り、残りの者も一挙に根絶 <small>ねだ</small> やしにするべきである。」
	男語り	それに対して11代津和野藩主で、神祇官 <small>じんぎ</small> を務める、亀井茲藍 <small>これみ</small> は、異議をとなえました。
	役人-3	「いや、いや、そんな手荒なことはせず、宣教師からキリシタンたちを離し、我国の神道のありがたさを教えれば、無知で愚かな百姓ゆえ、そのうち、たやすく改心するだろう。」
	男語り	こうして、御前会議において「処分はするが死刑にはしない。」という亀井の案が通り、浦上キリシタンの中心人物114名に、出頭命令が下りました。 この 第一次流配 のありさまをクザン神父は日記にこう書いています。
	クザン神父	「明朝六つ刻（日の出頃）に御用！」という長崎府知事からの命令が、114名の家々に伝えられた。 村人は水 <small>みず</small> 杯 <small>さかずき</small> をして別れを惜しんだ。 家族も村人も歩ける者は一緒について行った。 もう日が暮れかかるころ、家族や村人は監視のこん棒で追い返された。
	男語り	やがて役人が判決文を読み上げた。
	役人	「その方どもは異宗を信仰いたし、天下のご法度 <small>はつと</small> を破ったものであるにより、死罪 <small>しざい</small> に処せられるべきであるが、無学の百姓ゆえ <small>ごうだい</small> 広大なご恩恵により、他国に預け置かれる。」

<p>★縛られ連れていかれ 30</p> <p>★船で流され 31</p> <p>★第一次流配 32</p> <p>クザン神父</p> <p>男語り</p> <p>★第二次流配 33</p> <p>★ グラフ地図 34</p>	<p>男語り</p> <p>クザン神父</p> <p>男語り</p>	<p>茂十<small>もじゅう かしら</small>を頭とする 66人は 萩に、 仙右衛門<small>せんう えもん かしら</small>を頭とする 28人は 津和野に、 茂市<small>しげいち かしら</small>を頭とする 20人は 福山に 預け置く。立てい！」</p> <p>前々から 覚悟していた ことであるから、驚く者は 一人もいない。 村人たちは すぐに その場で 縄で縛られ、動物のように 「一匹！ 二匹！」と数えられながら、 1, 500トンの 蒸気船に 積み込まれた。クザン神父は…</p> <p>私たちは 彼らを見た。彼らもまた 私たちを 見たはずである。 心と心は 通じ合った。</p> <p>彼らは 最後の見納めとして 天主堂にそびえる 十字架を 眺めるのであった。</p> <p>その1年半後、第二次流配として 残りの浦上キリシタン3,300人にも、20藩22か所への流配が 下されました。</p> <p>浦上のキリシタンたちは、「流配」のことを、「旅」と呼んでいます。</p> <div data-bbox="451 1061 1485 1182" style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; text-align: center;"> <p>20藩22カ所の地図</p> </div>
<p>9、浦上村総流配 津和野藩153人 を預かる</p>		
<p>★津和野へ 35 36</p> <p>★養老館 37</p>	<p>女語り</p>	<p>合わせて153人の 浦上キリシタンを預かった 津和野藩は、 4万3千石と言う 小藩でありながら、紙や蠟<small>ろう</small>の産業で 潤っていたため、実際の財力は10万石を 越えていたといわれます。</p> <p>一方、人材の育成や 文化の発展にも努め、藩校の「養老館」からは (西周<small>にしあまね</small>や森鷗外<small>おうがい</small>など) 後世<small>のこ</small>に名を遺す人物が 出ています。</p> <p>そして、津和野藩主の亀井茲藍<small>これみ</small>は、キリシタン処分<small>ごぜんかいぎ</small>の御前会議では、 強硬派の木戸孝允<small>たかよし</small>らに対して、 「手荒なことはせずとも、神道のありがたさを 教えれば、たやすく 改心するだろう。」と異議を述べていました。</p> <p>しかし亀井たちの、この自信が崩れたとき 焦<small>あせ</small>りに変わり、かえって、他の流配地に見られない、ひどい拷問を加える事となったのです。</p>

10、説得から拷問へ、改心方針がかわる

男語り 当時21歳の甚三郎が、厳しい拷問にも屈しないで、役人と堂々と渡り合いました。

そのうちに、夜明けとなり 太陽がのぼると、役人たちはいつものように、東に向かって 柏手を打って、一心に 拝んでみせました。

役人 「太陽が のぼった。そなたも柏手を打って、日輪様 を拝め。」

甚三郎 「拝ませぬ。」

役人 「この、恩知らずめ！ 毎日、昼も夜も 太陽さまの おかげ。その太陽さまを 見ながら、おまえは、拝む道を 知らぬのか。そして、目に見えぬ デウスを一生懸命 拝む。そんな、馬鹿な奴があるか。」

甚三郎 「それなら、お役人様、私^{わけ}がその訳を 申し上げます。お役人様が、何か 用があつて 外に 出られたとします。田舎道^{いなかみち}で、日が暮れ、真つ暗になってしまい、後にも先にも行かれぬ、いよいよ困っているところに、ある方が お出でになって、提灯^{ちようちん}に 灯をつけて『これを、持って 行きなされ』と 言って下さった。その提灯の お蔭で お役人様は、無事に 家に帰られた。

そのとき、お役人様は、どうなさいますか。すぐ、その提灯を 高い所に上げて、両手をつき 平伏して、『お提灯様、本当に ありがとうございます。お蝋燭^{ろうそく}さま、ありがとうございます。あなたさまのおかげで、命が 助かりました。この御恩は、一生忘れませぬ』と仰せになって、提灯を お貸し下さった方は、今見えぬ、どこにおるかかわからん。そんな者に お礼を 言う必要はないと、仰せになるので ございますか。」

「私たちは、毎日、太陽の ありがたさは、知っております。けれども、その太陽に お礼を 言うことは ございません。その太陽を造って 輝かして下さる デウス様を拝み、感謝しております。」

役人 「こやつは、百姓の ぶんざいで、つべこべ 理屈ばかり 抜かしよる。ああ、もうよい。元の 三尺牢に 入っておれ。」

★提灯を
38

★ホルバート神父が建てた「マリアさまと安太郎の像」
写真
39

	男語り	<p>どんな手段を使っても屈しない者たちは、三尺牢<small>おりに</small>に入れられました。三尺牢とは、1辺が1m足らずの、狭い木造りの檻で、入れられたが最後、足を伸ばすことも、立つこともできず、飢えと、寒さに 弱り果て、シラミや 自分の糞尿<small>ふんにょう</small>の上にくずくまるといふ、見るも哀れな状態になります。</p>
★文字説明 40 41	11、「乙女峠」の由来となった 安太郎の 三尺牢殉死	
★ 甚三郎写真 42 43	女語り	<p>30才の安太郎が 三尺牢に入れられました。 (「乙女峠の証し人」に30才と記載) …読まない</p> <p>彼は、聖母マリアに対する 深い信心をもち、人の嫌う便所掃除を引き受け、自分の食べる分まで 人に まわしていました。</p> <p>甚三郎の『覚え書き』にはこう、書かれています。</p>
★安太郎と 聖母マリア 44	甚三郎	<p>三尺牢屋の そばによりつき、「安太郎さん、安太郎さん」と声をかけました。ところが、小さい声にて、返答をいたし、それによって、わたくし 申すは、</p> <p>「あなたは この三尺牢屋のうちにて さぞや、寂しゅう<small>さみ</small>ござりましよう。」と申しますれば、</p>
	安太郎	<p>「私は 10時、12時 までは、寂しゅう<small>さみ</small>ござりません。12時より先に なりますれば、青い着物に 青いきれをかぶり、サンタ・マリア様のご絵の顔立ちに、似ております その人が、物語をしてくれます。ゆえに、少しも 寂しゅうはござりません。けれども、このことは、私が生きて おるまでは、人に 話して下さるな。」</p>
	甚三郎	<p>それより 3日目に、まことに よろしき 死去で ござりました。まことに よろしき 月夜でござりました。この人は、まことに 聖人と思いました。</p>
12、お菓子より、パライソにいく事を 選んだ モリちゃん		
★説明 45	男語り	<p>明治政府は、流配地 20藩22カ所に キリシタンの待遇の「基準」を示していました。</p>
★文字説明 46		<p>…パワーポイントで表示 (読まない)</p> <p>食べ物は、男女共、1日1人に付き、玄米5合、味噌20<small>もんめ</small>匁、菜代20文に定め、朝、昼、晩3度にまかなう事。ただし、労働する者には、米、味噌を増加する。</p>

<p>★誘う役人 47</p> <p>★応える モリちゃん 48</p> <p>★モリちゃん 天国へ 49</p>	<p>男語り</p> <p>役人</p> <p>モリちゃん</p> <p>男語り</p>	<p>しかし、この基準は 他の藩と同様 実行されず、 役人が 上米をはねるなど、実際は 程遠いものでした。 時々、下肥をとりに来る 百姓が、子供が喜んで 遊ぶだろうと、ミン ミン 鳴いている セミを投げ入れてやると、子供たちは、いきなりバ リバリ 食べてしまったので、驚いたそうです。 また、見物人が、大根の葉を 投げ入れると、それこそ お菓子でも もらったかのように、食べたといいます。 こうした中で、役人たちは 5才になるモリちゃんを 一人呼びだして、 美味しそうな 菓子を 見せながら 誘いました。</p> <p>「キリシタンを やめれば、この お菓子をやるよ」</p> <p>「お母がね、『パライソへ 行けば、そげんなお菓子よりも、 もったもった おいしいものがある』と、いいなさったから、 キリシタンを やめません。」</p> <p>モリちゃんは、健気にも そう答えて、飢餓の殉教を 選んだのでした。 津和野で亡くなった37人のうち、31人が栄養失調で亡くなって います。</p>
<p>★ 50 13、甚三郎の弟 祐次郎の殉死・親子のスズメに 神の愛を知る</p>		
<p>★氷責め 51</p> <p>★三尺牢 52</p> <p>★十字架に 縛りつけら れた祐次郎 53</p> <p>★縁側にて 54</p>	<p>女語り</p>	<p>説得役は、リーダー格の 仙右衛門と甚三郎さえ 改心させれば 他の者も続くと考えました。</p> <p>しかし 二人は 厳しい氷責めにも 屈しません。 そこで、弱々しい弟の祐次郎を、いためつけて、甚三郎を改心させてやろ うと、残酷な 拷問を企てました。</p> <p>11月の末、日本海から吹いてくる風は 雪を含み 寒い日が続いていま した。 祐次郎は 丸裸にされ、丸太の十字架に 縛りつけられて、人の通る所 におかれました。 役人が、下品な言葉でからかったり、いたずらすると、 内気な 祐次郎の目からは、涙がこぼれました。さらに、でこぼこした 竹 の縁側に 座らせ、大黒柱に 縛り付け、朝から晩まで 鞭でたたきました。 兄の甚三郎は、祐次郎が拷問にかけられている間、風呂焚きをさせられま した。</p> <p>ピュー、ピューと 鞭が、祐次郎の体に食いこむたびに、 「キャー、キャー」と、かん高い 悲鳴が 上がります。</p>

<p>★介抱の様子 55</p>	<p>役人 女語り 祐次郎</p>	<p>それでも、キリシタンとして、どうか 耐えて欲しい！ という気持ちは 変わりません。</p> <p>14日目になると 祐次郎は、危険な状態に になりました。 さすがに、役人も、うろたえて、姉のマツを呼び</p> <p>「弟は、病気になった。お前の部屋で、介抱せよ」</p> <p>と、祐次郎を ひきわたしました。 薬や包帯が あるわけでなし、マツは、ただ 着物を着せて、冷え切った 傷だらけの 祐次郎の体を 温めたり さすったりするほか ありませ ん。</p> <p><small>あんね</small> <small>かんにん</small> 姉 堪忍してくれのう。ほかの 衆にも、おわびしてくれのう。 イエズス様の <small>なんぎ</small> ご難儀を 思うて、口ば 結んでおるばってん、 あまり、痛かもんじゃけん つい、キイキイ わめいてしもうて、<small>みみざわ</small> 耳障り じゃったろ。 おら、信仰が 弱かもんじゃけん、 八日目には、もう 体がもてん。 次の 裁判では、転びますと、無我夢中で 言うかもしれん。 祈りが 足らんけんじゃろーと 一心になって、 イエズス様、サンタ・マリア様、ジョゼフ様に 最後の お助けを祈った。</p> <p>ふと、目を上げると、屋根の上に 子スズメがおる。 そこへ、親スズメが 飛んできて、何か 子スズメに 食わせ おった。 風が ひどく吹くと、親すずめは、風上 のほうに止まり、体を 寄せて やる。 それを見て、気が付いた。</p> <p>スズメでさえ 親は、子を あげん かわいがり 守っておる。 <small>あんね</small> のう姉、おら 天主様の子よ。 目にば 見えんばってん、天主様が おらば 可愛がって 守って下さる と、はっきり わかって きたとたい。</p> <p>そしたら、にわかにか 気が 落ち着いてのう、 覚悟が 出来た。 それからは、今まで 犯した 罪を痛悔し、臨終の祈りを したとたい。</p> <p>責め苦は ひどう なったばってん、よほど しのぎやすくなった。 竹の縁側は、ほんに よか 黙想の場所じゃったばい。」</p>
----------------------	---------------------------	--

<p>★抜け穴からでてくる 56</p>	<p>女語り 祐次郎 女語り</p>	<p>祐次郎の 最期の時が 来たと聞いて、抜け穴から甚三郎がきて、闇夜の 中で祐次郎の手を 握りました。</p> <p><small>あんち</small> 「兄 か？おら、もうじき 天主様に、召されるごとある。 <small>あんね あんち</small> 姉と兄 は、生きながらえて、浦上に 帰れたら、 <u>一人は、教え方になって 人々に 教え、</u> <u>一人は、結婚して、息子ば 神父様に してくれろ。</u> <u>やっぱり、教理を よう知つとらんと、信仰も 弱かけん。</u> <u>子どもば、泣かせなさんな。子供に 罪はなか。」</u></p> <p>その後、浦上に帰った マツと甚三郎は、祐次郎の 遺言を果しました。 マツは、孤児たちの世話をし、後に「お告げの MARIA 修道会」となる 「十字会」に入り、伝道活動をしました。</p> <p>甚三郎は、出雲の松江に流されていた 平山タキと 結婚し、 長男の松三郎を 司祭にしました。</p> <p>「乙女峠」の著者である 永井 隆に 洗礼を授けたのは、 この守山松三郎神父 でした。</p>
<p>★文字説明 と使節団 57</p>	<p>14、岩倉使節団に 「信教の自由を 認めない 日本は、野蛮国！」</p>	

	<p>男語り</p> <p>欧米諸国 の人 - 1 " - 2 " - 3</p> <p>男語り</p> <p>群衆 - 1</p> <p>群衆 - 2</p> <p>男語り</p>	<p>1873年2月24日 キリシタン禁教の高札が 取り外されました。 それには 次のような、いきさつがあったのです。</p> <p>その2年ほど前、岩倉具視を 大使とする 総勢107人の 大使節団 が、1年10カ月という長い期間をかけて、欧米の先進12か国を 視察 のために廻っていました。 (1871年12月23日～1873年9月13日) しかし一行は、行く先々で、冷ややかな 待遇を受ける事となったのです。</p> <p>「キリスト教迫害は、我々を 侮辱するのと同じである。」 「信教の自由を 認めない 日本は、野蛮国 である」 「キリスト教の弾圧は、アフリカの 奴隷売買 と並ぶ、 人道問題である」</p> <p>特に、ベルギーのブラッセルでは、一行の乗った馬車に 市民たちが押し 寄せ、非難の叫びが 止まりません。</p> <p>「信仰の自由を、認めよ！ 浦上のキリシタンを、牢から出せ！」</p> <p>「信仰の自由を、認めよ！ 浦上のキリシタンを、牢から出せ！」</p> <p>使節団は、高が知れた「浦上」という 村の名前を、 こんなに遠く離れた 異国の市民が 知っていて、しかも 深い同情を 寄せていることに、驚かされる ばかりでした。 そして、日本が これから先 世界を相手に 対等に 話し合うためには 「キリシタン禁教」の問題を 根底から 考え直さなければならない、と、 思い知らされたのです。 かくて、岩倉は、ベルリンから、留守政府に 電報を打ちました。</p>
<p>★文字説明</p> <p>58</p> <p>59</p> <p>★高札</p> <p>60</p>		<p>…パワーポイントで表示 (読まない)</p> <p>浦上キリシタンを、直ちに、釈放しなければ、 使節団は 対等の外交を 行い得ない。</p> <p>岩倉全権の要請に基づいて、 ついに、260年間、キリシタンを苦しめていた「高札」は、取り外され、 浦上キリシタンの 釈放と帰郷が 許されました。 長い者で5年、短い者で3年振りの 故郷でした。 (注：第一次流配 1868, 7, 20～ 第二次流配 1870, 1, 1～ 帰着 1873, 4-7、なお改心者は 1872 帰郷 …読まない) それは、プチジャン司教が、日本に来て丁度10年目のことでした。 司教はパリ外国宣教会本部に、電報をうちました。 「キリスト教禁教令 撤廃される 宣教師15名至急入用！」</p>

15、浦上村帰郷 改心者は1872年、不改心者は1873年

<片岡 - 436 p の表> <片岡 - 475 p > <津和野 - 222 p >

★ 表
61

	流配 人数	死 亡 者	堅持者	転宗者	帰還者
津 和 野 組	153 人	39 人	6 7 人	82 人	116 人
全 流 配 者	3414 人	662 人	1930 人	1022 人	1930 人？

★帰る人々
62

女語り

いよいよ、津和野の改心者が 先に帰ることになった時、
^{ひら}平の友吉は、大浦天主堂の ロカーニユ主任司祭宛の手紙を、
託しました。

^{ひら}
平の友吉の手紙

平の友吉

お上のご命令により、改心者は郷里の長崎へ帰ることになりました。
彼らの中には、私どもに、一方ならぬ慈善を行ってくれた人がおります。
そのお蔭で私共は、ただ今、アニマ（靈魂）も色身（^{しきしん}肉体）も壮健である
のです。実際、私どもが飢え渴きに苦しんでおります時、かの人たちは、
大いに同情を寄せて、助けてくれたのでした。

どうぞ、彼らが参りましたならば、その告解を聞いてやって下さい。彼ら
は、悔い改めて、再びキリシタンになりたいと望んでいます。自分らは、
どんなことがあっても、キリシタンをやめ得ない、と役人に申し出ました。
しかし、役人は、取り上げてくれなかったので、彼らは非常に悲しんだも
のであります。

私は、デウスの恩憐れみと、サンタ・マリアの^{おなさ}御情けとを、彼らのために
祈り、あわせて、パーテル様におかせられても、彼らのためにオラシヨ（祈
り）をなし下さんことを祈ります。彼らは、パーテル様に御面会でき、コ
ンビサン（告白）いたすことが出来ればと、ただそればかりを望んでいる
のであります。

明治5年 平の友吉・・・読まない（^{ひら}平/地名）

女語り

先に帰る者たちは、自分たちを 弁護するこの手紙に、どれだけ 心が救
われ、再び、教会に戻る 勇気と希望を 得たことでしょう。

	16、おわりに 殉教地とは、悲惨な、恐ろしい場所ではありません。 神の愛が証された 勝利の場所です。	
★ビリオン神父 63 64	男語り	浦上キリシタンたちがいなくなると、迫害を遺す物は、すっかり取り払われました。 萩教会の 初代主任になった ビリオン神父は、 蕪坂 <small>かぶさか</small> の千人塚に 殉教者の墓を建て、37人の名前を 刻みました。 さらに、津和野教会の 歴代神父様方によって、 乙女峠 <small>ごんにち</small> 一帯が、今日のような「聖地」として整えられました。 流配地22カ所で奪われた命は、合わせて662人---- (20藩22カ所の“旅”先)
★墓石名牌 65		
★乙女峠 66		読み書きも ままならない 浦上農民の、血と涙の闘いが、 1889年(明治22年)大日本帝国憲法(28条)に、 「信教の自由」と「人間の平等」の文字を加えさせました。 2018年は、高木仙右衛門たちが、津和野に到着して、150年の記念の年にあたります。 乙女峠の殉教者の 列福・列聖を祈るとともに、大きな驚きと 尊敬をこめて、この 朗読劇を終わらせて頂きます。ありがとうございました。
★ 67 信仰は、孤立した 行為ではありません		…パワーポイントで表示 (読まない) 信仰は、孤立した 行為ではありません 信仰者は、信仰を 他の人から受け取りました。 それを他の人に、伝えなければなりません (カトリックカテキズムー166 より)
★完 68 69 ★写真 70 ★教区では 71 ★聖母像 72		— 完 —